

RETAILER ACADEMY NEWS

Sep 2020 | Bentley Motors Japan



フライングスパーの 累計販売台数が40,000台突破 初代のデビュー以来15年で達成

ベントレー モーターズはこのほど、フライングスパーの累計販売台数が40,000台を突破したと発表しました。2005年に初代が発売されて以来、世界中のお客様に愛され、新しく生まれ変わった3代目も世界的な人気を得ています。初代はコンチネンタル フライングスパーという名称でしたが、名称が変わってもその人気が変わることはありませんでした。

2代目にモデルチェンジした際に、コンチネンタルGTとの差別化を図るために名称をフライングスパーに変更し、一貫してパフォーマンスと4ドアサルーンの快適性を完璧に融合させることに注力してきました。フライングスパーは、ベントレーらしい大胆でエキサイティングな路上での存在感と、比類のないレベルの快適性と洗練されたキャビンを備え、ドライバーと同乗者の双方を満足させてきたモデルです。



フライングスパーの起源となった1957年製のコンチネンタル フライングスパー。

フライングスパーの起源は1950年代

初代フライングスパーの発売は2005年ですが、フライングスパーの歴史は1952年にさかのぼります。この年にH.J.マリナーがデザインしたボディをまとったクーペ「R-Type コンチネンタル」が誕生。H.J.マリナーは、このモデルのサルーン版を求める市場があると予測し、4人乗りのS1 コンチネンタル フライングスパーを開発し、1957年に発売しました。「フライングスパー」という車名は、H.J.マリナーのマネージングダイレクターを務めていたアーサー・タルボット・ジョンストンが、彼の一族であるスコットランドのクラン・ジョンストン家の紋章に馬の蹄鉄（スパーク）があることにちなんで命名されました。そのため、最初のモデルはラジエーターグリルに蹄鉄が描かれていました。H.J.マリナーは217台のS1コンチネンタル フライングスパーを製造しました。

1959年になるとアルミ製V8エンジンを搭載したS2が登場。当時世界最速の4ドア車として、工場出荷時から標準的な4ドアボディが用意されました。これと同じタイミングで、ベントレー モーターズがH.J.マリナーを買収。マリナーはベントレーのビスポーク部門としての歩みをスタートさせました。1962年から1965にかけてS3が登場しましたが、再びマリナーが

ボディを手掛けたS3コンチネンタル フライングスパーが発表され、究極の4ドアラグジュアリーパフォーマンスを実現しました。

2005年にコンチネンタル フライングスパーの名が復活し、コンチネンタルGTの4ドアバージョンとして、その名の真の精神を21世紀に蘇らせました。2013年には2代目、2019年に3代目へと移行してきた歴史は記憶に新しいところですが、いずれの世代のモデルも1950年代から続くラグジュアリー グランドツーリング サルーンという哲学を受け継ぎ、世界中で高い評価を得た、ベントレーを代表するモデルとなっています。



3代目のフライングスパーはベントレーのフラッグシップモデルに。



革新的な装備を多数搭載 新型メルセデス・ベンツ Sクラス

メルセデス・ベンツは、全面刷新により7代目に進化した同社の最高級サルーン、Sクラスの新型モデルを9月2日にオンラインで発表しました。

新型メルセデス・ベンツ Sクラスのまとめ

- 標準ボディ、ロングボディともにボディサイズを拡大
- 12.8インチのOLEDセンターディスプレイを採用。従来モデルに比べて物理スイッチを27削減
- リアアクスルステアリングを初採用。駐車時に後輪を最大10度操舵することで、従来より2m小さい最小回転半径を実現
- 当初のエンジンは、3.0L直6ガソリンエンジン+ISGと、3.0L直6ディーゼルエンジンのみ
- 4.0L V8エンジン、プラグインハイブリッドなどは2021年に追加予定
- レベル3の自動運転機能は2021年に導入予定

エクステリアの特徴

- 最新のデザイン哲学“Sensual Purity”（官能的純粋）を体現したエクステリアデザイン
- 格納式ドアハンドルを新規採用。空気抵抗係数は世界トップレベルの0.22を実現
- 伝統的なフードマスコット付きの大型グリルを採用。中央にスターマークを配したスポーツグリルは設定なし



インテリアの特徴

- 特別な眼鏡をかけることなく3D表示を可能にした3Dドライバーディスプレイを新設定
- フロントガラスに進行方向表示を投影するARナビ機能を搭載し、表示内容を拡充させたヘッドアップディスプレイを採用
- 新世代のMBUXを搭載。顔認証、指紋認証、音声認識など、生体認証を利用したパーソナライゼーション機能を設定



新型Sクラスに採用された主な新機能

- 世界初採用となる後席乗員向けのリアエアバッグ
- 新たにタッチ式ディスプレイとなり、音声認識機能とリアタブレットでも操作可能になったリアエンターテインメントシステム
- 赤外線カメラにより乗員の動きを認識。次の動きを予測して自動的に機能を作動させたり警告などを行う、MBUX インテリア・アシスタント
- 音声認識やレーダーセーフティシステムなどと連動し、イルミネーションによりさまざまな状況を知らせるアクティブアンビエントライト
- 側面衝突時には車高を8cm上げ、サイドメンバー部で衝撃を吸収させる機能を新たに搭載したE-ACTIVE BODY CONTROL

ベントレー・フライングスパーとの比較



	FLYING SPUR	Mercedes-Benz S-Class 標準ボディ	Mercedes-Benz S-Class ロングボディ
全長	5,325 mm	5,179 mm (+54)	5,289 mm (+34)
全幅	1,990 mm	1,921 mm (+22)	1,921 mm (+22)
全高	1,490 mm	1,503 mm (+10)	1,503 mm (+12)
ホイールベース	3,195 mm	3,106 mm (+71)	3,216 mm (+51)

※ 括弧内は従来モデルとの差異

	FLYING SPUR	Mercedes-Benz S 450 4MATIC	Mercedes-Benz S 500 4MATIC	Mercedes-Benz S 350 d	Mercedes-Benz S 400 d 4MATIC
エンジン形式	W12ガソリン ツインターボ	直6 ガソリン ターボ	直6 ガソリン ターボ	直6 ディーゼル ターボ	直6 ディーゼル ターボ
排気量	5,950 cc	2,999 cc	2,999 cc	2,925 cc	2,925 cc
最高出力	635 ps/5000 - 6000 rpm	367 ps/5500- 6100 rpm	435 ps/5900 - 6100 rpm	286 ps/3400 - 4600 rpm	330 ps/3600 - 4200 rpm
最大トルク	900 Nm/1350 - 4500 rpm	500 Nm/1600- 4500 rpm	520 Nm/1800- 5500 rpm	600 Nm/1200- 3200 rpm	700 Nm/1200- 3200 rpm
トランスミッション 形式	8速DCT	9速AT	9速AT	9速AT	9速AT
駆動方式	アクティブAWD	アクティブAWD	アクティブAWD	後輪駆動	アクティブAWD
0-100km/h加速	3.8秒	5.1秒	4.9秒	6.4秒	5.4秒
最高速度	333 km/h	250 km/h	250 km/h	250 km/h	250 km/h
車両本体価格	26,674,000円	約13,330,000円 (ドイツ本国価格)	約14,720,000円 (ドイツ本国価格)	約12,000,000円 (ドイツ本国価格)	約13,370,000円 (ドイツ本国価格)

COMPETITOR INFORMATION



特別仕様車 メルセデス・ベンツ G 350 d manufaktur Edition メルセデスAMG G 63 manufaktur Edition	
発表・発売日	2020年7月27日 予約受付開始
概要	<ul style="list-style-type: none">・カタログモデルでは設定のないボディカラーを特別に採用・各部にアクセントカラーのブラックペイントを施し、ブラックスモーク化したライトレンズを装着・両モデルともにカタログモデルでは設定のないインテリアトリムを採用するなど、内外装を特別仕様にアップグレード
車両価格 (税込)	メルセデス・ベンツG 350 d manufaktur Edition： 15,490,000円 メルセデスAMG G 63 manufaktur Edition： 24,800,000円
デリバリー 開始時期	—



一部改良 レクサスRX	
発表・発売日	2020年7月22日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none">・パーキングサポートブレーキ（静止物＋後方接近車両）とブラインドスポットモニターを全車標準装備・アクセサリコンセント（AC100V・1500W）をフロントセンターコンソールとラゲッジルームに追加設定
車両価格 (税込)	主なラインアップ LEXUS RX300 (AWD)： 5,510,000円 LEXUS RX450h “version L” (AWD)： 7,560,000円 LEXUS RX450h “F SPORT” (AWD)： 7,830,000円 LEXUS RX450hL (AWD)： 7,960,000円
デリバリー 開始時期	—



一部改良 メルセデスAMG GT	
発表・発売日	2020年8月5日 予約受付開始
概要	<ul style="list-style-type: none">・GT/GTロードスターの最高出力を530psに、最大トルクを670Nmに強化・AMG GT S/GT S ロードスターは廃止・レーダーセーフティパッケージを全車標準装備・限定40台の特別仕様車「メルセデスAMG GT Night Edition」を発売
車両価格 (税込)	主なラインアップ メルセデスAMG GT： 17,770,000円 メルセデスAMG GT R： 24,530,000円 メルセデスAMG GT ロードスター： 19,270,000円 メルセデスAMG GT Night Edition： 19,990,000円
デリバリー 開始時期	2021年第一四半期



ニューモデル アウディ Q7	
発表・発売日	2020年8月18日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none">・Qモデルの新世代デザインを採用したエクステリアデザイン・V6エンジンに48V電装システムによるマイルドハイブリッドドライプシステムを標準搭載・新型アウディ Q7の導入を記念して、Q7 45 S line limitedを310台限定発売
車両価格 (税込)	アウディ Q7 55 TFSI quattro： 9,570,000円 アウディ Q7 55 TFSI quattro S line： 10,200,000円 アウディ Q7 45 S line limited： 9,750,000円
デリバリー 開始時期	—



一部改良 メルセデスAMG GT 4ドアクーペ	
発表・発売日	2020年7月17日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none">・対話型インフォテインメントシステム「MBUX」を全車標準装備・パノラミックルーフとカーボンファイバールーフをオプション設定・ブランドプロジェクターライトを追加・ボディカラーに新色を追加
車両価格 (税込)	メルセデスAMG GT 43 4MATIC+： 12,160,000円 メルセデスAMG GT 53 4MATIC+： 16,470,000円 メルセデスAMG GT 63 S 4MATIC+： 24,370,000円
デリバリー 開始時期	—



ニューモデル ポルシェ 911ターボ/911ターボカブリオレ	
発表・発売日	2020年7月16日 予約受付開始
概要	<ul style="list-style-type: none">・最高出力は従来モデルから40ps増しの580psに、最大トルクは40Nm増しの750Nmに強化・0-100km/h加速は従来モデルから0.2秒の短縮となる2.8秒、最高车速は320km/h・911ターボとしては初となるスポーツエグゾーストシステムをオプション設定
車両価格 (税込)	ポルシェ 911ターボ： 24,430,000円 ポルシェ 911ターボカブリオレ： 27,310,000円
デリバリー 開始時期	—

MULLINER



マリナーの動きが活発化 コレクションとクラシックに進展

ベントレーのビスポーク部門であるマリナーは、今年からコーチビルド、コレクション、クラシックの3つの事業領域をメインにビジネスを展開していますが、コレクションとクラシックで大きな進展がありました。



コレクションは特別仕様車などを手掛ける事業領域で、2019年のパイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライムで市販車部門の新記録樹立を果たしたコンチネンタルGTをモチーフにした特別仕様車の製造が始まりました。このモデルのボディカラーはマリナーのオプションカラーであるラジウムで、カーボンファイバーのボディキットやアシッドグリーンのブレーキキャリパー、カラーエディションのピレリP ZEROタイヤといった特別仕様となっています。カーボンファイバーのフェイスパネルには、パイクスピークのコース図（写真左）とフィニッシュタイムが描かれています。

クラシックは、主に往年の名車のレストアなどを手掛ける事業領域で、現在は1920年代の「ブローワー」を完全に蘇らせるコンティニュエーションシリーズに注力しています。オリジナルのブローワーを完全に分解して各パーツをスキャンし、CAD上で組み立てるところまでは完了していました。このほどマリナーのワークショップで正式に

プロトタイプを組み立てが始まり、組み上げられたスーパーチャージャー付4.5リッターエンジンの点火試験が成功するなど、完成に向けて着々と工程が進められています。「新車」のブローワーは、1920年代にこのモデルが参戦したレース数に合わせて12台が製造されます。





フライングスパーの スタイリング スペシフィケーション 「スポーティな美しさに加わるパフォーマンスのエッセンス」

ベントレー モーターズはこのほど、フライングスパーのスタイリング スペシフィケーションの導入を発表しました。
このパッケージオプションにより、フライングスパーの究極のラグジュアリー&比類のないパフォーマンスというコンセプトをさらに強調できるようになります。

フライングスパーは、アクティブAWDやAWS、トルクベクタリング、48V 電動アンチロールバーなど最新のシャシーテクノロジーが盛り込まれ、俊敏でダイナミックなラグジュアリー グランドツーリング サルーンのベンチマークとなりました。スタイリング スペシフィケーションは、これらの機能を備えたフライングスパーがフラッグシップモデルにふさわしい外観を作り上げます。

カーボンファイバー製の外装パーツは、視覚的な正確さもアピールするため、カーボンファイバーの織り方は2×2の綾織パターンで、一貫性を持たせるためにすべてのコンポーネントが同じ方向に織られています。多層構造のカーボンファイバーは重量増を最小限に抑えつつ、最適な強度と耐久性が得られるように配慮しています。

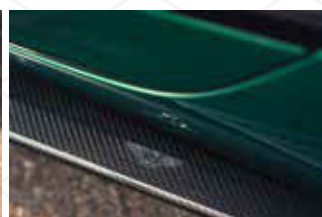
もちろんスタイリング スペシフィケーションで装着されるこれらのコンポーネントは、外観を優れたものにするだけでなく、空力にも優れた効果を発揮するように設計されています。さらにパワートレインやブレーキの冷却、ノイズ、パーク ディスタンス コントロールのレーダーへの影響などが出ないような設計にもなっています。



スタイリング スペシフィケーションを選択すると、以下のハイグロスカーボンファイバーのコンポーネントが取り付けられます。



フロントバンパー スプリッター



サイドスカート
(金属製のウイングドBバッジ付)



リアディフューザー



トランクリッドスポイラー

21MYから4シート スペシフィケーションを導入 コート・ド・ジュネーブも選択可に

フライングスパーは、21MYから4席仕様の4シート スペシフィケーションや、センターコンソールをテクニカルに飾るコート・ド・ジュネーブのオプションを導入しています。

4シート スペシフィケーションは、その名の通り後席を左右独立シートに変更する全4席仕様とするオプション。後席のセンターコンソールは、フロントセンターコンソールを後席まで伸ばした「ロングスルーコンソール」となります。このコンソールには、もちろんUSB ポートやタッチ スクリーン リモートなどが装備されます。

コート・ド・ジュネーブは、すでにコンチネンタルGTに導入されているものと同じですが、フライングスパーのセンターコンソールの形状に合わせて設計されています。高級腕時計のムーブメントにも使われるこのモチーフにより、インテリアにテクニカルで精巧な印象を与えることが可能となります。



ベントレー モータースポーツの カスタマーチームがIGTCにフル参戦

ベントレー モーターズのモータースポーツ部門はこのほど、カスタマーチームを通じて2020年のインターコンチネンタルGTチャレンジ(IGTC)にフル参戦し、マニファクチャラーズタイトルに挑戦することを発表しました。これにより、ワークスドライバーたちはすでにポイントを獲得しているチャンピオンシップに対し、活動を継続することが可能となりました。

今季のワークスチームは、スール・ペッパー・グーノン組がバサースト12時間で初優勝し、幸先の良いスタートを切りました。しかし新型コロナウイルスの感染拡大にともない、技術パートナーのMスポーツとレースプログラムの見直しを実施。カスタマーチームのレースプログラムを優先させるべく、ワークスチームとしての2020年の活動を中断する決断を下しました。

ベントレーのカスタマーチームは、チーム・パーカーレーシングが出場したレースで優勝したり、チーム・ラザルスがポールポジションを獲得したり、T3モータースポーツが表彰台を獲得したり、順調に結果を残してきました。カリフォルニア州ソノマを拠点とするK-PAXレー



シングは、10月4日に開催されるIGTC第2戦のインディアナポリス8時間に出場します。さらに、10月24日に始まるスパ24時間には、3チームから5台のコンチネンタルGT3が出場を予定しています。このレースでは、バサースト優勝メンバーのスール・ペッパー・グーノン組がK-PAXレーシングから参戦し、シリーズを通じたポイント獲得でタイトル奪取を目指します。

ベントレーのモータースポーツ担当ディレクターのポール・ウィリアムズは、「IGTCは世界のGTレースの最高峰で、私たちが戦うべき場所です。カスタマーチームを通じてタイトル争いを継続できることになりました。参戦する4チームがタイトルを争う可能性を秘めていることは、本当にエキサイティングです。一緒に勝ち取ることができれば、カスタマーチームのプログラムにとって素晴らしい結果になるでしょう」などとコメントしています。

今シーズンのカスタマーチームのレース活動は、12月12日のキャラミ9時間レースで締めくくることになります。レースの舞台で躍動するベントレーのカスタマーチームと、タイトル獲得を目指すベントレー・ボーイズたちに熱いご声援をお願いします！



COLLECTION

1/43スケールモデルに新色登場 コンチネンタルGTで2色追加



ベントレーの公式アイテムを集めたベントレー コレクションの1/43スケールモデルカーのコンチネンタルGTに新色が追加されました。

1台は、エクステリアカラーがゴールド系パレットにあるカーメンで、ブラックライン スペシフィケーションを合わせたスポーティなルックスです。インテリアはベルーガのモノトーンとなっています。もう1台は、エクステリアカラーがストームグレーで、インテリアはブリュネル×リネンの2トーンとなっています。

いずれのモデルカーも生粋のグランドツアラーであるコンチネンタルGTの彫刻のようなボディラインを忠実に再現した、レジン製の高品質なモデルカーです。商品はベントレーのロゴ入りボックスに収められていますので、コレクションとしてだけでなくプレゼントとしても最適です。ぜひ、お客様に積極的にお勧めください。



ENVIRONMENT

クルー本社でリビングウォールを設置 壁面に2,680本もの植物



ベントレー モーターズはこのほど、クルー本社にリビングウォール（壁面緑化）を設置しました。ベントレーが取り組む生物多様性プログラムの一環で、28種類以上、2,680本のシダや芝、常緑樹が壁面に植えられました。このリビングウォールの設置は、世界で最もサステナブルなラグジュアリーカーメーカーを目指すベントレーの最新の取り組みです。

今回設置されたリビングウォールは、クルー工場のあるサウスチェシャー地方では初の試みとなり、すべて英国で栽培された植物を使用しています。クルーでは水を無駄にしない活動にも注力しており、このリビングウォールには自動散水システムによって天候に関係なく植物に最適な量の水が供給されます。

ピーター・ボッシュ取締役（マニファクチュアリング担当）は、「私たちはサステナブルなラグジュアリーモビリティの提供と、事業活動による環境への影響の低減に取り組んでいます。人通りが多く最も目立つ生産施設の壁面にリビングウォールを設置することで、従業員やお客様、すべての訪問者にサステナビリティがクルーでの業務の中心にあることを思い出していただくことができます」などとコメントしています。



トルクとパワーの違いとは

エンジンの性能を示す数値がトルクとパワーです。では、トルクとパワーはいったいどのような違いがあるのでしょうか。
今回は、トルクやパワーの違いなど、エンジン性能の基本となる部分を紹介します。

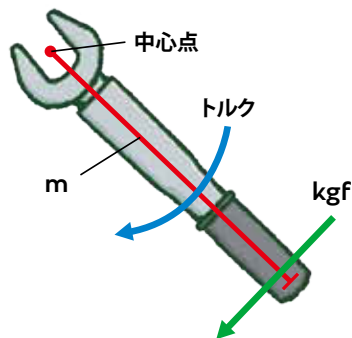


トルクはモノを回転させる力

「トルク」とは、中心点からモノを回転させる効果を示す量のこと。他に、「回転モーメント」「ねじりモーメント」とも呼ばれることがあります。クルマで言えば、エンジンのクランクシャフトを回す力を指すものとなっています。どれだけの大きさがあるのかは、力の大きさ (kgf) と、回転の中心から力のかかる点までの距離 (m) を掛け合わせることで示すため、古くは「kgf・m」と表示されていました。現在は国際単位系として「Nm」と表示されるようになっています。



トルクの大きさは主にエンジン排気量に大きく影響されます。



軸を回転させる力をトルクと呼びます。その大きさは、力の大きさと、力をかける点までの距離を掛け合わせたものとなります。

パワーは時間あたりにできる仕事量

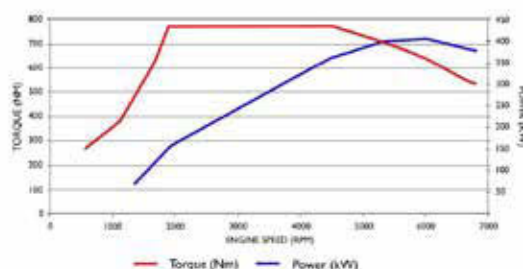
クルマのエンジンで、パワーと言えば「仕事率」のことで、「出力」や「馬力 (PSやHP)」、「kW」とも表現されています。どれだけの重さのものを、どれだけ移動させたかを「仕事」と呼びますが、それに時間という概念をプラスしたのが「仕事率」です。ある人が100m走る「仕事」をしたとします。ただの「仕事」では、ゆっくりでも急いでも同じ。そこで「時間」という概念をプラスすると、10秒で走る「仕事率」は、20秒で走る2倍となります。ちなみに1馬力は「75kg」のモノを「1秒」で「1m」持ち上げる能力を意味します。100馬力なら7500kgを1秒間で1m持ち上げること。エンジンに当てはめれば、クランクシャフトを回す力がトルクで、それに時間当たりの回転数を掛け合わせたものがパワー (仕事率) となります。



パワーとは時間あたりにできる仕事の能力のこと。エンジンを回す力 (トルク) に、時間当たりの回転数を掛け合わせたものとなります。

エンジンのトルクカーブが示すもの

トルクはエンジンを回す一瞬の力となり、それを持続させて高い速度まで車両を引っ張ってゆくの出力です。そうしたエンジンの特性を一目でわかるようにしたものが、エンジン性能曲線です。エンジン回転数に対して、トルクとパワーが、どのように発生するのが示されています。ここで注目のはトルク発生値を示す曲線の「トルクカーブ」です。ベントレーの多くは、掲載される図のように、まるで台形のようなトルクカーブを描くモデルが多く存在します。こうしたトルクカーブを描く車両には、ある特徴が備わっています。それが「トルク変動のないスムーズな加速」「低回転域からいつでも最大のトルク力を使える運転のしやすさ」です。また、「低いエンジン回転でも強いトルクを使えるため、結果的にエンジン回転数を低く抑え、燃費性能を高める」ことも可能となります。



新型ベントイガ V8 のエンジン性能曲線。最大トルク 770Nm が 1960 ~ 4500rpm にかけて発生。最大出力 404kW (550PS) は 6000rpm で発生します。

メートル法と国際単位系 (SI)

トルクやパワーには複数の表示があります。かつては、メートル法が使われており、エンジンのトルクは「kgf・m」、パワーは「PS (馬力)」と表示されていました。しかし、日本では1999年より、メートル法の後継として世界で広く使用される国際単位系 (SI) が導入されています。国際単位系 (SI) でのトルクの表示は「Nm」、パワーは「kW」となります。その換算係数は掲載する表の通りとなります。

■ SI 単位とメートルの換算

	SI 単位	メートル	SI への換算
総排気量	cm ³	cc	1
出力	kW	PS	0.7354kW
トルク	Nm	kgf・m	9.806Nm
空気圧	kPa	kgf/cm ²	98.07kPa